

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-270742

(P2000-270742A)

(43)公開日 平成12年10月3日(2000.10.3)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

A 0 1 K 97/08

識別記号

F I

A 0 1 K 97/08

テーマコード(参考)

審査請求 未請求 請求項の数11 書面 (全 8 頁)

(21)出願番号 特願平11-122820

(22)出願日 平成11年3月25日(1999.3.25)

(71)出願人 000128946

マミヤ・オービー株式会社

埼玉県浦和市西堀10丁目13番1号

(72)発明者 友金 清一

埼玉県浦和市西堀10丁目13番1号 マミ

ヤ・オービー株式会社内

(72)発明者 矢作 光啓

埼玉県浦和市西堀10丁目13番1号 マミ

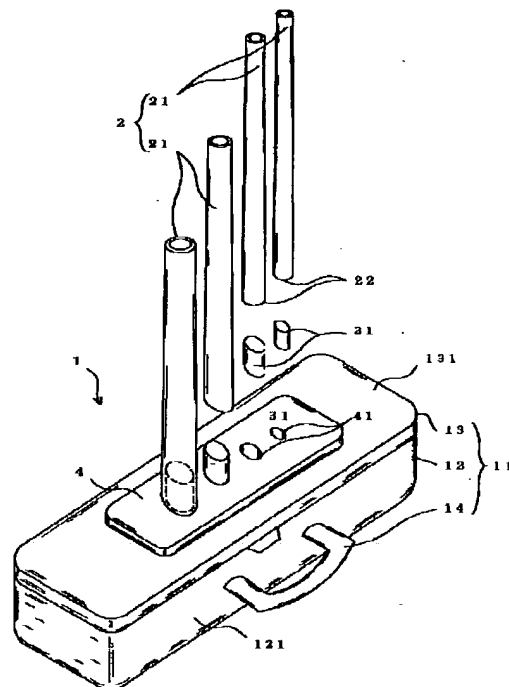
ヤ・オービー株式会社内

(54)【発明の名称】 釣竿用収納容器

(57)【要約】

【課題】 竿管は円筒形の形状を有するため静置した際の安定性を欠き、釣竿の使用後に行われる手入れの補助ができ、多少の風や傾斜により倒れたり転がって竿管の表面に傷をつけてしまったり、よけいに汚してしまったりするという不具合を解消する釣竿用収納容器を提供することを目的とする。

【解決手段】 容器本体に釣竿を部品ごとに分割して収納し持ち運ぶことができる釣竿用収納容器の容器本体に、釣竿を容器本体の外部に露呈させて保持することができる保持手段を備えている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 容器本体に釣竿を収納し持ち運ぶことができる釣竿用収納容器であって、前記容器本体は前記釣竿を乾燥させるために該容器本体の外部に露呈させて保持することができる保持手段を備えていることを特徴とする釣竿用収納容器。

【請求項2】 容器本体に釣竿を収納し持ち運ぶことができる釣竿用収納容器であって、前記容器本体は前記釣竿を乾燥させるために該容器本体の外部に露呈させて保持することができ、前記釣竿の竿棹又はこれを分割した各竿棹にそれぞれ合致する形状を有する保持手段を備えていることを特徴とする釣竿用収納容器。

【請求項3】 前記保持手段は、前記容器本体に対して着脱自在であることを特徴とする請求項1又は2に記載の釣竿用収納容器。

【請求項4】 前記保持手段は、前記容器本体外部に設けられていることを特徴とする請求項1～3のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器。

【請求項5】 前記保持手段は、前記容器本体内部に収納可能であることを特徴とする請求項1～4のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器。

【請求項6】 前記保持手段は、前記竿棹を直立保持するものであることを特徴とする請求項1～5のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器。

【請求項7】 前記保持手段は、前記竿棹を懸吊保持するものであることを特徴とする請求項1～5のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器。

【請求項8】 前記保持手段は、前記竿棹の端部に嵌合する突起体であることを特徴とする請求項1～7のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器。

【請求項9】 前記保持手段は、前記竿棹の端部を扶持する扶持体であることを特徴とする請求項1～7のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器。

【請求項10】 前記保持手段は、前記竿棹の端部に圧入して保持する圧入体であることを特徴とする請求項1～7のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器。

【請求項11】 前記保持手段の表面には、柔軟性を有する弾性体が備えられており、該弾性体によって前記釣竿の各竿棹を接触保持することを特徴とする請求項1～10のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、釣竿を収納して持ち運ぶことができる釣竿用収納容器に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 一般に、釣を行う際、釣竿は、特開昭57-33527号公報や特開平7-257565号公報等に見られるような釣竿用収納容器に収納して携行される。

【0003】ところで、釣竿は、カーボン繊維やガラス

繊維等の高強度繊維にエポキシ樹脂等の熱硬化性合成樹脂を含浸させたプリプレグをマンドレルに巻回し、熱硬化処理をして形成した素管の外周に、エポキシやウレタン等の合成樹脂からなる塗料を塗布することによって形成されている。このような釣竿は、軽量で高強度という特性を持つが、その反面で、水分や油分等に対し比較的弱い特性を有している。そのため、上記合成樹脂成分に耐水性のを有するアクリル成分を添加したり、特開平3-10631号公報等に見られるようにフッ素樹脂からなる塗膜層を形成する等の技術的手段が講じられてきた。

【0004】しかし、上記のような技術的手段は、耐水性及び耐油性を向上させるものであり、実際の過酷な環境での使用においては、水分や油分に対して完全な耐久性を有するものではない。そのため、例えば、釣竿の使用後に、表面に付着した水分や油分を除去せずに、上記のような釣竿用収納容器に収納したまま保管したり、高温多湿の車のトランクに放置したりしてしまうと、素管内に水分が浸透して層間剥離を起し、釣竿の強度等を低下させ、品質を劣化させてしまうという問題が発生するのである。

【0005】このような釣竿の品質の劣化を防止するためには、使用後の釣竿に対する洗浄、拭拭、乾燥等の手入れをする必要があり、メーカーとしてもこれをユーザーに推奨している。釣竿の手入れ方法としては、例えば、釣竿を元竿、穂先竿、穂持竿等の各部品に分解し、竿管に付着した塩分や汚れ等の異物を水やぬるま湯などで洗浄除去する。そして、竿管表面に付着した水分を繊維布等によって拭拭し、日陰で風通しの良い場所に静置して竿管内部まで乾燥させる等がある。ここで、日陰で風通しの良い場所に静置して竿管を乾燥させる際には、例えば、壁際に立て掛けたり横に寝かせて静置することになる。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】ところが、一般に竿管は円筒形の形状を有していることから安定性を欠き、多少の風や傾斜により倒れたり転がってしまう。それにより、竿管の表面に傷をつけてしまったり、よけいに汚してしまったりするという不具合が生じていた。

【0007】そこで、本発明の目的とするところは、釣竿の使用後に行われる手入れの補助し、上記のような不具合を解消する釣竿用収納容器を提供することにある。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】本発明が上記目的を達成するために講じた技術的手段は、(1)、容器本体に釣竿を収納し持ち運ぶことができる釣竿用収納容器であって、前記容器本体は前記釣竿を乾燥させるために該容器本体の外部に露呈させて保持することができる保持手段を備えていることにある。

【0009】これにより、従来のように釣竿を収納する

ことができ、しかも、釣竿を使用した後の手入れをする際には、釣竿を乾燥させる作業の補助することができる。

【0010】また、(2)、容器本体に釣竿を収納し持ち運ぶことができる釣竿用収納容器であって、前記容器本体は、前記釣竿を乾燥させるために該容器本体の外部に露呈させて保持することができ、前記釣竿の竿棒又はこれを分割した各竿棒にそれぞれ合致する形状を有する保持手段を備えていることにある。

【0011】これにより、従来のように釣竿を収納することができ、釣竿を使用した後の手入れをする際には、釣竿を乾燥させる作業の補助することができ、しかも、釣竿の各竿棒にそれぞれ合致する形状を有する保持手段を備えているため、確実に保持することができ、乾燥中に釣竿が倒れたり転がること等により、釣竿に汚れや傷が付着することを防止することができる。

【0012】さらに、(3)、上記(1)又は(2)に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、前記容器本体に対して着脱自在であることにある。

【0013】これにより、保持手段が容器本体に対して着脱自在であることから、収納の際や持ち運ぶ際にコンパクトになる。

【0014】さらにまた、(4)、上記(1)～(3)のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、前記容器本体外部に設けられていることにある。

【0015】これにより、保持手段が本体外部に設けられていることから、風通しがよくなり、釣竿の乾燥作業を迅速に行うことができると共に、乾燥作業中に滴下する水分が容器本体内部に入ることと防止できる。

【0016】さらにまた、(5)、上記(1)～(4)のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、前記容器本体内部に収納可能であることにある。

【0017】これにより、保持手段が内外いずれかに設けられていても容器本体内部に収納することができ、保持手段を収納したまま収納したり持ち運ぶことができ、保持手段を紛失することを防止できる。

【0018】さらにまた、(6)、上記(1)～(5)のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、前記竿棒を直立保持するものであることにある。

【0019】これにより、釣竿の竿棒を直立させて保持することができ、釣竿の内部に存在する水滴が滴下しやすくなり、乾燥作業を速めることができる。

【0020】さらにまた、(7)、上記(1)～(5)のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、前記竿棒を懸吊保持するものであることにある。

【0021】これにより、釣竿の竿棒を直立させて保持

するものであるため、釣竿の内部に存在する水滴が滴下しやすくなると共に、滴下した水を完全に釣竿の外部に排出することができる。

【0022】さらにまた、(8)、上記(1)～(7)のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、前記竿棒の端部に嵌合する突起体であることにある。

【0023】これにより、釣竿の各竿棒の端部とガタつきなく嵌合し、確実に保持することができ、乾燥中に釣竿が倒れたり転がること等によって釣竿に汚れや傷が付着することを防止することができる。

【0024】さらにまた、(9)、上記(1)～(7)のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、前記竿棒の端部を挟持する挟持体であることにある。

【0025】これにより、挟持体の大きさが任意に設定でき、複数の挟持体がすべて同じ大きさであっても確実に各竿棒を挟持して保持することができる。

【0026】さらにまた、(10)、上記(1)～(7)のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、前記竿棒の端部に圧入して保持する圧入体であることにある。

【0027】これにより、釣竿の各竿棒の端部から各竿棒内部に圧入弾装することで確実に保持することができる。

【0028】さらにまた、(11)、上記(1)～(10)のいずれか一項に記載の釣竿用収納容器において、前記保持手段は、その表面に柔軟性を有する弾性体が備えられており、該弾性体によって前記釣竿の各竿棒を接触保持することにある。

【0029】これにより、保持手段が釣竿の各竿棒を保持する際に、釣竿の表面を傷つけることを防止することができる。また、保持手段が直立させて保持するものであれば、滴下した水滴を多孔質の弾性体で吸収し、その水を釣竿の外部に放出するため、釣竿内部に水が溜まることを防止し、迅速な乾燥作業が可能となる。さらに、保持手段の表面に柔軟性を有する弾性体備えていることにより、保持手段を釣竿の各竿棒の形状と正確に合致する形状である必要がなくなり、成形が容易になるという利点を持つ。

【0030】以上、本発明における技術的手段は、可能な限り互いに組み合わせることが可能である。ここで、本発明における釣竿の竿棒とは、並縫ぎ、逆並縫ぎ、印籠縫ぎ振出縫ぎ等の縫ぎ式釣竿における各構成要素を指し、例えば、元竿、穂先竿、穂持竿等をいう。また、縫ぎ式釣竿ではない釣竿においては、例えば、一本ものの釣竿を指し、グリップ部分のみ取り外せるものについては、それを除いた部分を指す。

【0031】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好適な実施の形態

を図面にもとづき、その作用も併せて詳細に説明する。図1は、本発明の第一の実施の形態であり、釣竿用収納容器1の全体を示す概略図である。

【0032】釣竿用収納容器1は、主に、釣竿2を各竿棹21に分解して収納する容器本体11と釣竿2の各竿棹21を直立させて保持する保持手段3とよりなる。容器本体11は、収納部12と蓋部13とよりなり、収納部12は、釣竿2の各竿棹21よりも十分に長い長さを有し、釣竿2を各竿棹21に分解して収納できるようになっている。また、収納部12の外面121には把持14が設けられており、釣竿用収納容器1に収納された釣竿2を容易に持ち運ぶことができるようになっている。

【0033】蓋部13の外面131には、釣竿2の手入れをするときに使用できる保持手段3が設けられている。この保持手段3は、例えば、蓋部13の外面131に取付けられた基部4と、この基部4に設けられた複数の嵌合凹部41と、この嵌合凹部41に嵌脱自在に嵌合される複数の突起体31とよりなる。

【0034】個々の突起体31は、釣竿2の各竿棹21と合致するようにそれぞれ異なる大きさの外径を有し、例えば、円柱状、円筒状等の形状に形成されている。突起体31の少なくとも一端は、釣竿2の各竿棹21の端部22とガタつきなく嵌合できるようになっている。また、突起体31の他端は、基部4に設けられた嵌合凹部41とガタつきなく嵌合できるような形状を有している。嵌合凹部41は、突起体31の他端と合致する形状に形成されており、例えば、突起体31単体が等径の筒状の形状であれば、嵌合凹部41は、突起体31の他端に合致する円柱状に開口形成される。

【0035】釣竿2を乾燥させる際には、嵌合凹部41にそれと合致する大きさの突起体31を嵌合し、基部4から突起体31を突出させる。次に、釣竿2の各竿棹21の端部22を基部4から突出した突起体31の一端に嵌合することで釣竿2の各竿棹21、突起体31、嵌合凹部41の三者がガタつきなく嵌合され、釣竿2の各竿棹21が基部4に対して直立した姿勢で安定保持することができ、釣竿2を乾燥させることができる。そして、乾燥作業が終了した後は、釣竿2の各竿棹21を突起体31から抜脱して、容器本体11内部に収納し、保管することができる。突起体31も同様に、嵌合凹部41から抜脱し、容器本体11内部に収納することができる。

【0036】ここで、直立保持する保持手段3は、図1のように、基部4を蓋部13の外面131に設けたものに限らず、図2及び図3の変形例に示すように、収納部12又は蓋部13の内面122、132に設けたものであってもよい。図2のような場合、釣竿2を乾燥させる際には、容器本体11の蓋部13を開いて、蓋部13の内面132に取り付けた基部4及び嵌合凹部41を上に向け、突起体31を介して、釣竿2の各竿棹21を嵌合

凹部41に嵌合させることができる。そして、乾燥作業終了後には、各竿棹21及び突起体31を抜脱し、これらを収納部12に収納して保管することができ、蓋部13を閉じることによって、基部4も容器本体11の内部に収納されるため、突起体31が容器本体11外部に突出することなくコンパクトになる。

【0037】また、図3の変形例では、各突起体31の間隔を各竿棹21の外径と略同径に設定して、収納部12と一体成形し又は収納部12の内面122に固着している。これにより、各竿棹21を収納する際には、突起体31が容器本体11内部に収納された竿棹21をガタつきなく保持することができ、さらに、各竿棹21を乾燥させる際には突起体31に各竿棹21を嵌合し保持することができる。すなわち、突起体31を収納するときの保持と乾燥作業をするときの保持とを兼用することができる。しかも、保持手段3が容器本体11内部に収納されたままであるためコンパクトになり、突起体31を紛失する心配もない。

【0038】上述した第一の実施の形態及びその変形例においては、各竿棹21は直立保持されることから、乾燥させる際に竿棹21内部に存在する水滴が滴下し、釣竿2内部に嵌合された突起体31の上に溜まることになる。そのため、図4に示す突起体31の変形例のように、突起体31の外周に柔軟性を有する多孔質の弾性体34、例えばスポンジ等を被覆することも可能である。これにより、滴下した水滴は多孔質の弾性体34に吸収され、また、各竿棹21外部に放出されることになり、各竿棹21内部の突起体31上に溜まることが防止され、迅速な乾燥作業が可能となる。

【0039】また、突起体31に多孔質の弾性体34が被覆されていることにより、突起体31が各竿棹21と嵌合する際に、各竿棹21の内面を傷つけることを防止することができる。この場合、弾性体34は、少なくとも竿棹21を保持する際に、各竿棹21と接触する部分に設けてあればよい。さらに、突起体31は、容器本体11内部に収納可能な程度の大きさであることが好ましい。

【0040】図5は、本発明における第二の実施の形態であり、釣竿用収納容器1の斜視図を示している。この釣竿用収納容器1は、収納部12と蓋部13と把持14とを備えている。収納部12は、例えば、剛性を有する合成樹脂等からなり、底部123とこの底部123の周囲を包囲するように起立した側壁124とにより構成され、釣竿2を各竿棹21に分解して収納することができるようになっている。

【0041】蓋部13は、収納部12と同質の素材からなり、開口された収納部12を閉塞できるような形状を有している。蓋部13は、収納部12に対して開閉できるように、例えば、片縁辺133をヒンジ等によって収納部12の側壁124に取り付けられており、収納部1

2と蓋部13とにより容器本体11が構成されている。また、収納部12の蓋部13が取り付けられている側の側壁124には、把持14が取り付けられている。

【0042】蓋部13の内面132には、釣竿2の竿棹21又はこれを分割した各竿棹21を乾燥させるための懸吊保持する保持手段3が設けられている。保持手段3は、各竿棹1を挟持する挟持体32と、蓋部13と挟持体32とを連結する連結具5と、蓋部13に連結具5を固着するリベット等の固着部6とよりなる。連結具5は、例えば、可撓性を有する合成樹脂、ロープ等からなる紐状のものであり、挟持体32を容器本体11に対して出入自由に蓋部13の内面132と連結している。

【0043】挟持体32は、例えば、洗濯挟み状又はクリップ状のものが用いられ、弾圧体7を備えている。そして、弾圧体7の付勢により各竿棹21の端部22又はその胴部23を挟持して保持することができるようにになっている。挟持体32の大きさは、各竿棹21の少なくとも端部22を挟持できる程度の大きさがあればよく、任意に設定でき、複数の挟持体がすべて同じ大きさであっても確実に各竿棹21を挟持して保持することができるため、挟持体32の成形コストが低く抑えられる。また、挟持体32が各竿棹21と接触する場所には、柔軟性を有する弾性体34が備えられており、各竿棹21に傷を付けることを防止している。

【0044】各竿棹21を乾燥させる際には、容器本体11から挟持体32を取り出した状態で、例えば、家の壁等に取付けられたフックに容器本体11の把持14を掛け、各竿棹21の端部22又はその胴部23を挟持体32で挟持し、各竿棹21を垂下させることにより各竿棹21を乾燥させることができる。

【0045】ここで、懸吊保持する保持手段3は、本実施の形態のように各竿棹21を挟持して懸吊するものに限ることはなく、例えば、図6に示す変形例のように、弾性体34からなり、連結具5によって蓋部13と連結された圧入体33であってもよい。この圧入体33は、例えば、合成ゴムからなり、各竿棹21の端部22の内径より大きい径を有する筒状又は円柱状若しくは円錐台状に形成されている。

【0046】各竿棹21を乾燥させる際には、この圧入体33を各竿棹21の端部22から各竿棹21内部に圧入弾装することで保持することができる。また、懸吊して保持する保持手段3を弾性体34によって形成することにより、弾性体34を各竿棹21の形状と正確に合致する形状である必要がなくなり、成形が容易になるという利点を持つ。

【0047】そして、このような懸吊保持する保持手段3は、各竿棹21を垂下させて保持するため、各竿棹21の内部に存在する水滴が各竿棹21の内部に溜まることなく、各竿棹21の外部へ滴下して直接排出されるという利点を持つ。

【0048】以上、本発明を説明してきたが、本発明は上述のような実施の形態及びその変形例にのみ限定されるものではなく、その本質から逸脱しない限りどのような形態であってもよい。

【0049】例えば、第一の実施の形態における突起体31は、基部4から突出しないように嵌合凹部41内に嵌合固着され、又は、基部4と一体に形成され、基部4と突起体4とにより各竿棹21の端部22の形状に合致した環状の嵌合凹部41を形成し、釣竿2の各竿棹21を直立状態で保持するものであってもよい。また、第二の実施の形態における連結具5は、蓋部13に固着されたものではなく、着脱自在に取付けられるように構成されたものであってもよいし、挟持体32は、釣竿2の各竿棹21端部22を挟持するものに限らず、各竿棹21の胴部23を挟持するものであっても構わない。

【0050】

【効果】本発明は、以上のように構成されることにより、従来のように釣竿を収納することができ、しかも、釣竿を使用した後の手入れをする際に、釣竿を乾燥させる作業の補助することができ、乾燥中に釣竿が倒れたり転がること等により、釣竿に汚れや傷が付着することを防止することができる。しかも、保持手段が釣竿と共に収納することが可能であり、コンパクトになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 図1は、本発明における第一の実施の形態であり、釣竿用収納容器全体の概略を示す斜視図である。

【図2】 図2は、図1における実施の形態の変形例を示す斜視図である。

【図3】 図3は、図1における実施の形態の変形例を示す斜視図である。

【図4】 図4は、図1における突起体の変形例を示す一部断面斜視図である。

【図5】 図5は、本発明における第二の実施の形態であり、釣竿用収納容器の一部を切欠いた斜視図である。

【図6】 図6は、図5の実施の形態における係止具の変形例を示す斜視図である。

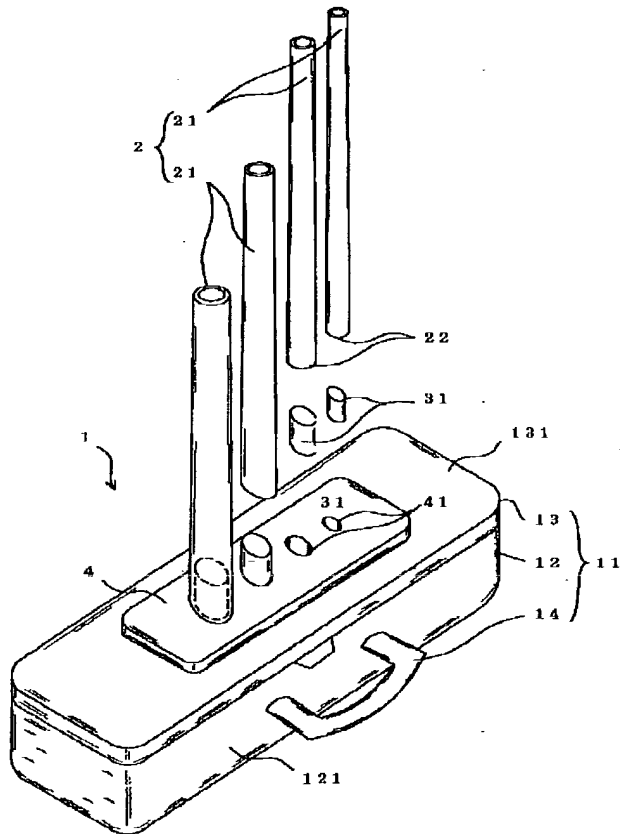
【符号の説明】

1	釣竿収納容器
11	容器本体
12	収納部
121	外面
122	内面
123	底部
124	側壁
13	蓋部
131	外面
132	内面
133	縁辺
14	把持
2	釣竿

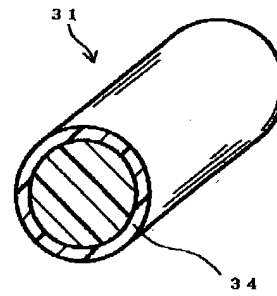
21 竿棹  
22 端部  
23 胴部  
3 保持手段  
31 突起体  
32 挟持体  
33 压入体

34 弹性体  
4 基部  
41 嵌合凹部  
5 連結部  
6 固着部  
7 弹压体

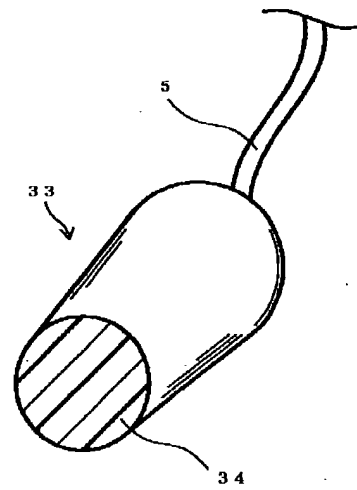
【図1】



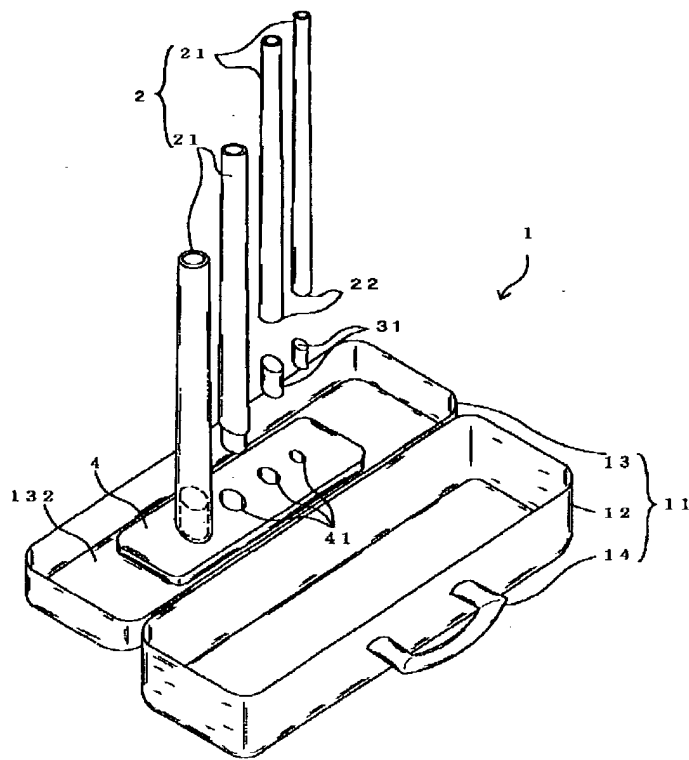
【図4】



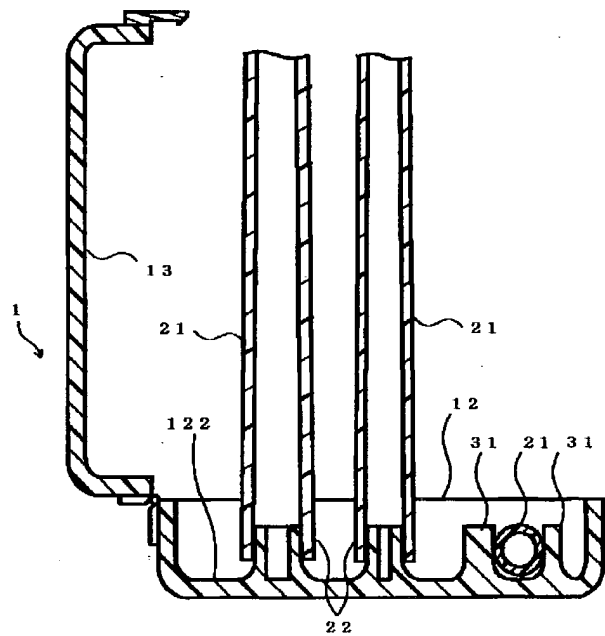
【図6】



【図2】

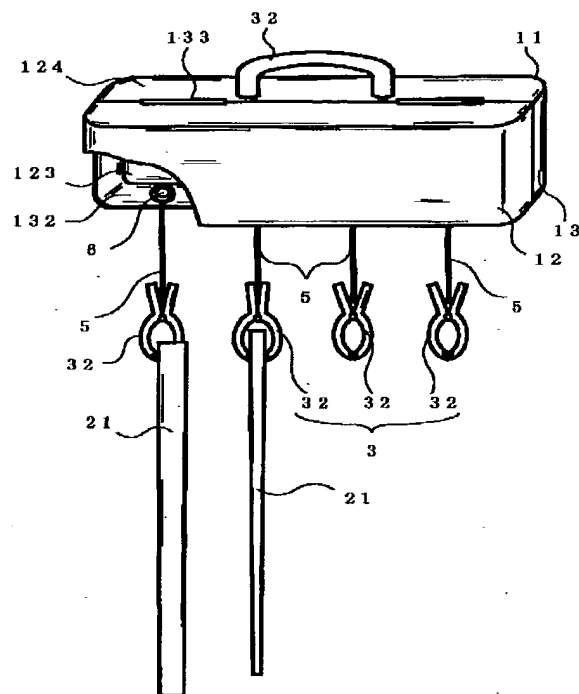


【図3】





【図5】



PAT-NO: JP02000270742A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000270742 A  
TITLE: CONTAINER FOR HOUSING FISHING ROD  
PUBN-DATE: October 3, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TOMOGANE, SEIICHI	N/A
YAHAGI, MITSUHIRO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MAMIYA OP CO LTD	N/A

APPL-NO: JP11122820

APPL-DATE: March 25, 1999

INT-CL (IPC): A01K097/08

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a container for housing fishing rod, capable of assisting care carried out after using the rod and solving such troubles that fishing rod is unstable when being left to stand and the rod falls or rolls by wind or inclination to damage the surface of the rod or make the rod dirt, because the rod has a cylindrical shape.

SOLUTION: This container is constituted so that a fishing rod can be housed in a container body 11 in a state in which the rod is divided the every part and carried and the container is equipped with a holding means 3 capable of

holding the rod in a state in which the rod is exposed on  
the outside of the  
container body 11.

COPYRIGHT: (C) 2000, JPO

DERWENT-ACC-NO: 2000-659325

DERWENT-WEEK: 200064

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Storage container for fishing rod,  
has holder which holds fishing rod exposed in external  
of container body

PATENT-ASSIGNEE: OLYMPIC KK[OLYMN]

PRIORITY-DATA: 1999JP-0122820 (March 25, 1999)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	MAIN-IPC
JP 2000270742 A		October 3, 2000	N/A
008	A01K 097/08		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
JP2000270742A	N/A	
1999JP-0122820	March 25, 1999	

INT-CL (IPC): A01K097/08

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000270742A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A fishing rod (2) is dried in a container body (11). A holder which holds the fishing rod is exposed in the external of a container body. The fishing rod can be stored and carried in the container body.

USE - For fishing rod.

ADVANTAGE - Supports maintenance of used fishing rod.  
Solves problem of making  
fishing rod extra dirty.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure is a partial cross-section view showing the outline of the fishing rod storage container.

Fishing rod 2

Container body 11

CHOSEN-DRAWING: Dwg.4/6

TITLE-TERMS: STORAGE CONTAINER FISH ROD HOLD HOLD FISH ROD  
EXPOSE EXTERNAL  
CONTAINER BODY

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2000-488712